

海外研修視察報告書

令和 8年 5月 25日

長崎県議会議長 様

長崎県議会議員 前田 哲也
坂口 慎一
大久保堅太
中村 俊介
富岡 孝介
虎島 泰洋

海外研修視察を実施しましたので、次のとおり報告いたします。

1 日程 令和8年4月24日から令和8年4月29日まで(6日間)

2 訪問国 インドネシア共和国、台湾

3 調査目的

- ・本県のデジタル産業の振興
- ・本県の産業労働人材不足対策
- ・インドネシア共和国との行政、経済、文化の交流促進
- ・台湾との経済、文化の交流促進

4 調査事項

- ・インドネシア共和国のデジタル産業及び行政との連携
- ・インドネシア共和国の工科大学及び人材送出し機関との連携
- ・インドネシア共和国及び台湾におけるインバウンド客誘致拡大
- ・台湾における本県産品の販路拡大に向けた調査
- ・台湾における台南日本人協会との交流促進

5 調査結果(別紙により作成)

6 調査により得られた成果及び県政への反映方策

インドネシア共和国におけるデジタル産業及び行政との連携については、今後、包括連携協定の必要性などを執行部と協議を進める。また、人材対策及び送出し機関との連携については、今後、人材の獲得競争が激化していくことが予想されており、本県の認知度向上や定着確保に向けた議論を進める。工科大学との連携については、本県内の大学との連携も含め、今後検討する。台湾における本県産品の販路拡大について、今回の調査において、台湾で販売されている本県産品が非常に少ないことが分かった。現在、台南日本人協会で交流を深めた飲料メーカーと本県産品の商品開発を協議中である。

別紙 海外研修視察報告書

5. 調査結果

(1) LPK ヴァン・デヴェンダー研修センター

【調査内容】 人材の送出し及び研修センターの教育について(経済情勢関連調査)

【日時】 令和8年4月25日 9時

【対応者】

レバナ・メトロポリタン協力担当副長官 カルタウィジャヤ

元レバナ地域開発庁長官 ベルナルドゥス・ジョノプトロ、他

【調査結果】

LPK ヴァン・デヴェンダー研修センターは、調理、クリーニング、観光、ITの4業種の訓練を行うセンターである。年齢層としては高校生くらいを対象として、専門的な職業訓練、日本語及び日本文化や慣習などを学ぶカリキュラムを実施している。

当センターの校長も務めるレバナ・メトロポリタン協力担当副長官のカルタウィジャヤ氏に案内していただきセンター内を視察した。各専門分野の訓練は、調理器具や洗濯機・乾燥機、ホテルのフロントのセット、IT機器などの施設整備がなされた中で実践的に行われており、派遣後、即戦力としての能力が発揮できるよう訓練されている。今後は、介護分野の訓練も開始する予定とのことである。



また、日本語教育、日本文化及び慣習などは、半年間ほどの寮生活の中で行われており、派遣後の日本での生活に馴染むことができるように事前の準備がなされている。



また、視察後には、校長や学生も含めて意見交換を行った。学生の日本に対する期待は高いものがあったが、インドネシアにおける本県の認知度はそれほど高くないことが分かった。この点について今後対策が必要である。長崎県では、今後、送出し機関側における本県の認知度向上のための取組を行う予定となっている。



今後、長崎県としても外国人材の確保に向けて取組が進められる中で、引き続き、連携を深め、各種施策の向上に結び付くよう働きかけていきたい。

(2) レバナ開発地域の各自治体との会議

【調査内容】 レバナ開発地域における現状と連携について(経済情勢関連調査)

【日時】 令和8年4月25日 11時

【対応者】

レバナ・メトロポリタン協力担当副長官 カルタウィジャヤ

元レバナ地域開発庁長官 ベルナルドゥス・ジョノプトロ

他、レバナ開発地域各自治体担当者 11 名

【調査結果】

バンドン市における総合的な行政サービスを提供する地方政府機関の DPMPSTSP において、レバナ開発地域の 7 自治体の担当者にお集まりいただき会議を行った。レバナ開発地域の現状の報告を受けた後、意見交換を行った。また、報告に先立ち、令和 8 年 3 月に本県の出島メッセ長崎において開催された「インドネシア経済・産業・人材シンポジウム」に出席していただいたカルタウィジャヤ氏に対して、長崎県よりお礼状が交付された。



レバナ開発地域は、西ジャワ州の 7 つの自治体(チレボン県、マジャレンカ県、スパン県、スメダン県、インドラマユ県、クニンガン県、チレボン市)で、現在、インドネシア政府による重点的な開発が進められている。整備されたパティンバン港やクルタジャティ空港を核として、物流・人流のハブ化が進められている。

開発状況の報告では、レバナ開発地域の経済成長や各地域のインフラ整備状況及びインドネシア国外からの投資の状況などの説明がなされた。



レバナ開発地域は、内陸部から沿岸部まで地域ごとに特色がある。例えば、沿岸地域のチレボン市には、バンドン工科大学のキャンパスがあり、海洋学研究的拠点となっている。今後、海洋産業の推進を図る本県においては、交流を深めておく必要性は高いと思われる。チレボン市政府の担当者であるニア・ノオラマ女史とは、今後連携を深めていくことで合意を得ている。

(3) バンドン工科大学(都市計画・政策開発学部)

【調査内容】 西ジャワの都市化と都市計画について(経済情勢関連調査)

【日時】 令和8年4月25日 13時

【対応者】

バンドン工科大学 学務担当副学長 アディワン・ファラン・アリテナン

元レバナ地域開発庁長官 ベルナルドゥス・ジョノプトロ

他、バンドン工科大学関係者 7 名

【調査結果】

インドネシア国内で最高峰ともいわれるバンドン工科大学を訪問し、バンドン工科大学・都市計画・政策開発学部の教授陣より、西ジャワ(レバナ開発地域)州の都市化(工業化と成長拠点)について報告を受けた。

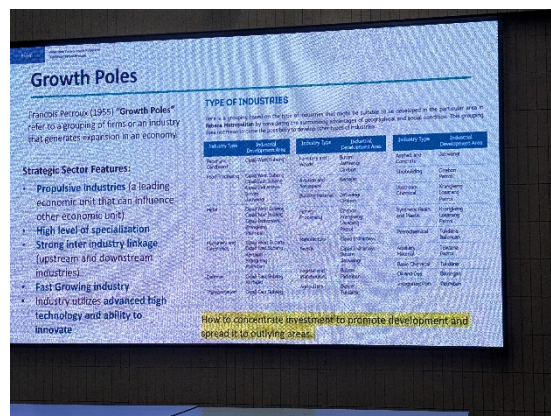
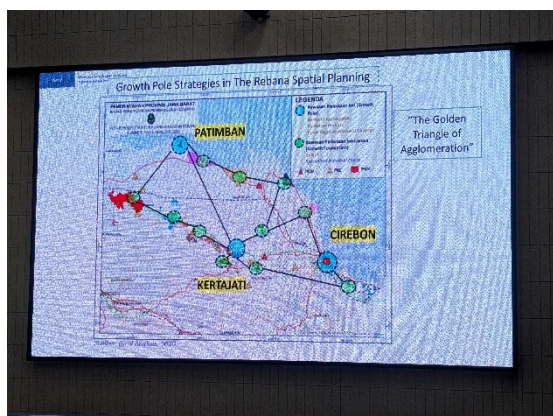


インドネシアにおいては、政府・自治体の政策部門の責任者には、都市計画や建築開発部門の人材が登用されている現状がある(ベルナルドゥス・ジョノプトロ元レバナ地域開発庁長官も同学出身で、レバナ市のニア・ノオラマ女史も都市計画が専門)。バンドン工科大学では、都市計画という専門的知見から詳細な報告がなされた。

レバナ開発地域においては、現在、国内外からの大規模な投資をはじめ、インフラ整備など都市開発が積極的に進められている。また、地域ごとに特色ある産業化の過程にある。地理的及び社会的条件の利点を考慮し、地域で開発するのに適していると考えられる産業をグループ化した開発が進められている。

例えば、スパン県やインドラマイユ県、クルタジャティにおいては、食品加工や金属、機械・電子機器、防衛、航空宇宙などの分野が、チレボンでは、造船、水産加工、建築資材などの分野が、成長拠点として位置づけられている。また、同時に ICT 化も積極的に進められており、施設整備と併せて、人材の育成も強力に推進している。

このような成長戦略に基づいて、国、州、市・県、地区、農村の 5 つの政府レベルで連携した取組が進められている。



今後は、レバナ開発地域の開発の状況、特性に応じた自治体間連携の在り方を模索すると共に、本県における大学間連携の在り方などを研究し、産業、人材等の産学官合わせた連携の在り方、本県の特性を活かした連携の在り方を検討していく必要を感じた。

(4) サウン・アンクルン・ウジョ (文化訪問)

【調査内容】 伝統文化の観光資源化について(文化交流関連調査)

【日時】 令和8年4月25日 16時

【対応者】 元レバナ地域開発庁長官 ベルナルドゥス・ジョノプトロ

【調査結果】

文化訪問として、バンドン市内の観光施設であるサウン・アンクルン・ウジョを訪問した。ベルナルドゥス・ジョノプトロ元レバナ地域開発庁長官より視察先として推薦された施設である。伝統芸能の継承と観光業の振興が同時的に行われているような施設である。



施設自体が村となっており、住民もここで生活している。約 60 年間、3 世代にわたりこの村で生活している。子供たちも含めて 1 日に 3 回のステージを行い、生計を立てている。ユネスコの無形文化遺産にも登録されている。

観光県である本県でも、同じような形態で実施する自体は難しいとしても、伝統芸能を観光資源化するという観点から参考となった。

(5)(公財)日本台湾交流協会・台北事務所によるブリーフィング

【調査内容】 台湾の概況及びインバウンド市場概況について(経済情勢関連調査)

【日時】 令和8年4月27日 10時

【対応者】

日本台湾交流協会台北事務所経済部

川名 洋次郎(主任)、平澤 友紀(主任)、稲盛 康輔(主任)

【調査結果】

日本台湾交流協会台北事務所において、台湾の現況(令和8年4月時点)及び台湾インバウンド市場の概況についてブリーフィングを受けた。台湾の概況については、一般的事項から政治、経済、社会、外交等、多岐にわたる事項について説明を受けた。また、台湾のインバウンド市場については、別途詳しい説明を受けた。

①台湾の概況について

まず、一般的な経済事項として、1人当たりGDPが37,827ドル(2025年、IMF推計)で、日本の34,713ドル(同)よりも多いこと、実質GDP成長率が8.68%と好調で、その背景には、米国向けAIサーバーの出荷が好調であるとのことであった。

賴清徳政権による国家発展戦略(2025～2028年)では、社会・経済・環境の重要指標が掲げられていて、特に、経済分野では、五大信頼産業(半導体、AI、サイバーセキュリティ、衛星通信、軍事・ドローン)について目標値が立てられ推進されている。また、南北・東西の格差是正が課題となっており、「台湾の均衡ある発展」が目指されている。そのため、「六大区域発展計画」が推進されている。



社会面については、急激な高齢化が進行しており、今後日本の 2 倍のスピードで高齢化が進み、2050 年には日本の高齢化率に追いつく見込みであるという。2024 年現在の年齢の中央値は、日本 49.9 歳、台湾は 45.1 歳である。出生率は、2024 年現在で、日本が 1.15 であるのに対して、台湾は 0.89 と少子化も進行している。

少子化に伴い、外国人労働者も増加している。2024 年現在で、約 82 万人を受け入れている。産業労働者のうちベトナム国籍が 40%、社会福祉労働者のうちインドネシア国籍が 80%を占めている。

台湾国内の雇用動向について、2025 年 4 月時点の有効求人倍率は 1.54、失業率は 3.45 である。全業種の平均月給は、63,628 台湾元(令和 8 年 4 月現在: ×5 で日本と比較)で、金融保険が 107,348 台湾元と最も高いが、ホテル・レストラン業(38,555 台湾元)、支援サービス業(40,640 台湾元)が低い水準となっており経済格差が大きい。ちなみに、製造業全体は平均並みであるが、半導体製造の世界最大手である TSMC 従業員の給与の中央値(2024 年)は 264 万 5,000 台湾元(年収)ととび抜けて高い。

半導体産業の投資状況について、近年、分散投資が進められている。TSMC は日米欧に分散、TSMC 以外は ASEAN に投資を進めている。TSMC のサプライヤー企業の日本への投資を徐々に増加している。しかし、分散は進むものの、台湾国内への投資額が最も大きい。

日系企業の台湾への進出も好調である。製造業関連、サービス業、飲食関連などで進出が続いている。日系企業の事業展開の方向性として、今後、現地事業を「拡大する」と回答した企業は 52.9%と、近年増加傾向にある。

台湾インバウンド市場の概況について

次に、台湾における海外渡航需要は非常に旺盛である。2025 年の海外渡航者総数は、延べ約 1,890 万人であった。前年度と比較すると 12.4%増加している。そのうち、約 3 分の 1 が訪日渡航者で、2025 年の年間訪日数は約 676 万人で過去最高であった。すべての月で 50 万人を超えている。

台湾からの訪日消費総額は過去最高で 1 兆 2,110 億円(12.8%)であった。国籍・地域別では、中国の 2 兆 26 億円(21.2%)に次いで 2 番目の規模である。

台湾からの訪日旅行者の訪日回数・リピート割合については、約 9 割がリピーターである。また、全体の 50%以上が 5 回以上の訪日経験があり、10 回以上が 25%という状況である。リピーター割合が高いため、求めるコンテンツが多様化しすぎているが、その分、多様な価値を提供できる地方にとってはチャンスであるとの分析であった。

台湾の海外旅行者の年齢別訪日選好状況については、低年齢層ほど訪日選好率が高く、50 代以上は相対的に低い結果となっている。20 代(39.0%)、30 代(39.9%)、40 代(35.8%)に対して、50 代(30.3%)、60 代以上(27.2%)となっている。

一方、訪日台湾人数が訪台日本人数を大幅に上回っており、その不均衡が課題となっている。特にコロナ後は 4～5 倍に拡大しており、日台交流・航空路線維持における課題として認識されている。日本からの訪台数の増加が課題である。

現在、日本の 30 空港に台湾からの直行便が就航している。九州・沖縄では、長崎空港のみが就航していない。福岡、熊本、沖縄はフルサービスキャリア、ローコストキャリアのいずれも就航している。鹿児島はフルサービスキャリアのみ、佐賀、大分、宮崎はローコストキャリアのみが就航している。今後、本県の課題として、直行便の就航が急務である。

長崎県のインバウンド概要については、来訪者の国・地域別構成としては、韓国が20.2%と最も多く、台湾は17.8%と2番目に高い。1月(春節)と7月(夏休み)に需要がやや集中する傾向にある。移動手段としては、鉄道・新幹線がもっとも多く、航空路線の就航が課題である。今後、台湾直通の航空路線の就航をはじめ、インバウンド対策としては、長崎空港の狭隘化対策等も課題であることを改めて認識した。

(6) 台北市内の商業施設(新光三越・SOGO・Mia C'bon 台北101店)における調査

【調査内容】 本県産品の販売状況及び販路拡大に向けた調査(経済情勢関連調査)

【日時】 令和8年4月27日 13時

【対応者】 現地ガイド1名

【調査結果】

本県産品の販売状況及び販路拡大に向けた調査を行うため、台北市内にある代表的な百貨店(食料品売場)及び高級スーパーマーケットを訪問し、主に野菜果物、精肉、鮮魚、米等の販売状況を調査した。普段、台北の百貨店では、日本食関連のイベントが多数開催されているとのことであったが、今回訪問した際は開催されていなかった。

訪問した百貨店は、新光三越、SOGO、高級スーパーはMia C'bon 台北101店の3店舗である。食料品売場を全体的に細かく調査したが、野菜果物、精肉、鮮魚、米等、全体的に本県産品は少ないのが現状であった。



唯一、新光三越にて、JA 全農ながさが出荷している「長崎びわ」が陳列してあった。現地ガイドによれば、時期によっては、長崎のみかんも販売されているということであった。精肉、鮮魚においては、長崎県産は見つからなかった。

全般的に、愛媛のミカン、青森のリンゴ、山梨のモモ・ブドウ、福岡のイチゴ、鳥取の白ネギ、鹿児島ของサツマイモ、宮崎、岩手の和牛、大分の鮮魚など、全国的な有名産地の品物が多かった。熊本県産については、イチゴをはじめ他県より比較的多く陳列されていた。





農水産物の台湾輸出については、食品安全に関する規制が厳しく、簡単には実現できないとのことである。しかし、実際に百貨店の食料品売り場やスーパーマーケットを訪れてみると、各県の産品が多く陳列されていた。

今後は、農水産物の販路拡大という観点から、台湾輸出に関する課題の研究を深め、販路拡大に向けた取組が必要である。

(7) 台南日本人協会との交流会

【調査内容】

台南日本人協会との交流促進及び県人会の状況について(文化交流関連調査)

【日時】 令和8年4月27日 12時

【対応者】

台南日本人協会理事長 奥西 克彦

台南日本人協会理事 朝原 啓介

台南日本人協会 瀬戸 健太郎

【調査結果】

奥西理事長をはじめとする台南日本人協会と交流会を開催した。台南日本人協会は台

南市内に在住もしくは勤務、台南市内の学生、日本関連企業、団体による日本人の協会で、台南在住の日本人が快適な生活を送るために活動を行っている。現在、約 60 名の会員で活動しているという。



奥西理事長はじめ今回参加していただいたメンバーは、台南市、高雄市に在住する方々で、それぞれ大学、飲料メーカー、半導体関連企業に勤務している。台南は非常に暮らしやすい反面、日本人は少ないとのこと。今後、大学生や高校生の交流など、若い人々の交流を促していきたいとのことであった。

台南市の長崎県人会の立ち上げなど、今後の展望として意見交換を行った。台湾の長崎県人会は、組織としては存在しているが、コロナ後活動が休止中ではないかとの指摘があった。事務局機能を誰が担うかなどの課題はあるものの、今後、連携を深めながら取組を進めて行きたい。

また、台南市に台湾本社を置く飲料メーカーの商品(ご当地商品)で、長崎県の特産物を使用したものがない状況との報告があった。これについては、今後、県・農業団体と連携し

て、新商品の開発に向けて取り組みを促していきたい。

(8) 鄭成功文化節前夜祭参加

【調査内容】

台南市関係者及び世界鄭氏宗親總會会員との交流・意見交換(文化交流関連調査)

【日時】 令和8年4月27日 17時30分

【対応者】

台南市政府 副市長 葉 澤山

台南市政府文化局 局長 黃 雅玲

台南市文化協會 會長 周 芷茹

台南市台日文化友好交流基金會 榮譽董事長 郭 貞慧

世界鄭氏宗親總會 監事長 鄭 和豐

他、世界鄭氏宗親總會会員多数

【調査結果】

令和8年4月28日に開催される鄭成功文化節の前夜祭に、平戸市台湾親善訪問団と共に参加した。鄭成功文化節は、毎年4月末に台南市で開催されており、鄭成功の出身地である平戸市からも、鄭成功の偉業を称え、国際交流を促進する目的で訪問団が派遣されている。

世界鄭氏宗親總會は、鄭成功の子孫により構成されている会である。鄭成功文化節の開催にあわせて台湾各地域より会する。その他、台南市政府、台南市議会、金門県など全国各地から関係者が多数参加された。

本県平戸市は、郷土の英雄である鄭成功の出身地であるため、世界鄭氏宗親總會会員の平戸市及び長崎県への親近感是非常に強いものがある。台南市政府関係者及び世界鄭氏宗親總會の皆さまと、台湾と長崎県の歴史的つながりや今後の交流促進について意見

交換を行った。



(9) 鄭成功文化節參加

【調査内容】 鄭成功文化節式典參加(文化交流関連調査)

【日時】 令和8年4月28日 9時

【対応者】

台南市政府 市長 黃 偉哲

台南市政府 副市長 葉 澤山

台南市政府文化局 局長 黃 雅玲

台南市文化協會 會長 周 芷茹

台南市台日文化友好交流基金会 榮譽董事長 郭 貞慧

世界鄭氏宗親總會 監事長 鄭 和豐

他、世界鄭氏宗親總會會員多数

【調査結果】

台南市延平郡王廟において、鄭成功文化節(鄭成功来台 365 周年記念中央政府式典)が開催され、平戸市台湾親善訪問団と共に出席した。式典は、台南市政府関係者、平戸市からの親善訪問団、世界鄭氏宗親總會、台湾各地の氏族協会、鄭成功を祭る寺院の代表者、鄭成功の子孫など多数が参列する中で執り行われた。式典中、県議団も興祭官として廟内での拝礼を行った。



式典には、台南市政府から黄偉哲市長も出席され、鄭成功の偉業を称え、台湾の発展に深い影響を与えたこと。鄭成功の母の出身地である平戸市にふれ、台湾と日本、その他の地域との友好と交流を深めていきたい旨の挨拶があった。

また、松尾有嗣平戸市長も、平戸市と台南市の友好の歴史にふれ、今後の友好促進に努めていきたい旨の挨拶をされた。

